

備え付けのポストへそのまま投函してください。
郵送の場合は三つ折りにし、のりで封をしてお出しください。

別記様式（第3条関係）

わたしの提案（政策提案）

投函日 ●年 ●月 ●日

※内容を確認させていただきますので、必ず住所・氏名・電話番号をお書きください。

ご住所	〒 243 - ×××× 神奈川県厚木市〇〇△丁目□番▽▽号	電話番号	000 - 000 - 0000
お名前	厚木 太郎	年齢	●歳

※裏面にある「提案にあたって」を必ずお読みいただき、全ての項目をご記入ください。
※具体的なイメージ等参考となる資料がある場合は添付してください。この用紙は政策提案です。（一般提案については、緑色の用紙です。）
※この用紙に記入しきれないときは、別紙にご記入いただき、同封してください。

件名：3次元都市モデルの活用による市民の行動変容の促進及び課題の解決	について
現状の課題・問題点：国では、society5.0の実現に向け、サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムを構築することを目指しており、その一環として、国土交通省を中心に都市空間を3D都市モデルと呼ばれるデータ等によって再現し、活用しています。現在、全国で約100自治体が3D都市モデルの活用を進めていることから、厚木市においても都市計画基礎調査や、都市計画基本図、ハザードマップなどの空間情報を三次元データとして整備し、様々な分野でリアリティをもって情報を発信するべきではないかと思えます。	
提案する政策の内容：厚木市において、3D都市モデルを整備し、都市計画、環境政策、防災、観光振興の分野で活用することを提案します。例えば、現在、市が作成しているハザードマップでは、紙やPDFによってその洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域を公表していますが、3D都市モデルを導入すると市民が危険性をいつでもリアルに感じ、注意報や警戒発令時に行動変容を促すことに繋がると思えます。	
予想される効果：既存の都市データに新たな付加価値を付与し、オープンデータ化することにより新たなビジネスやソリューションの創出に寄与できると思えます。都市計画分野では、より高度なまちづくり計画の立案、観光分野では市内外へリアルな情報発信、防災分野では河川の氾濫や洪水浸水想定区域のシミュレーション等、様々な分野において活用が期待できます。	
必要な費用：3D都市モデル（LOD1）の作成で約40,000千円の歳出がありますが、国土交通省では都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助制度）が設けられており、通常タイプの場合、補助率が1/2（上限なし）とされていることから、約20,000千円が必要な費用となります。	

の

り

し

ろ

③

